

小学生・中学生の皆さんへ

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>

あらかわ区報 Jr. は
荒川区ホームページで
ご覧になれます



あらかわ区報 Jr.

ARAKAWA KUHO JUNIOR

No.163

9.26

2024年[令和6年]

発行：荒川区 発行部数：23,000部
〒116-8501 荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111



世界で一足だけの靴をつくる

優しさと温もりの

手づくり革靴



「モノづくりのまち」として知られる荒川区では、製造工程の見学やモノづくりの体験ができる工場・工房などを「モノづくり見学・体験スポット」として公開しています。今回、尾久第六小学校のジュニア記者は、西尾久にある靴屋shiroを訪ねました。靴づくりの全工程を一人で手がける店主の矢倉龍一さんに靴づくりの技を見せていただき、その技術の一部を体験できる革小物づくりにもチャレンジしました！

【問合せ】観光振興課 ☎内線462



次は11月に発行する予定です

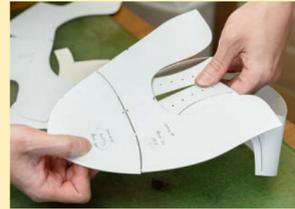
2 裁断

型紙に合わせて「革包丁」という道具で革を切ります。革の伸びる方向や、キズ・汚れを避け、無駄なく切れる位置を考えながら作業を行います。



1 計測・型紙づくり

足のサイズを測ります。両足の長さだけでなく、甲の高さや足の柔らかさまで確かめて、最適な靴の型紙を作ります。



革靴が できるまで

荒川区 モノづくりスポットを 探して



区内にはたくさんのモノづくりスポットがあります。『モノづくり見学・体験スポットガイド』の冊子には、訪問を記録するメモ欄が付いています。この冊子を持って、ぜひ、スポット巡りをしてみましょう。

配布場所
区役所・図書館など



靴屋 shiro

時代を超えて愛されるデザインの革靴を一人一人のサイズに合わせて製作。ベビー用の靴や、バッグ、財布、キーケースなど、プレゼントにぴったりの小物も手づくりしています。
●荒川区西尾久3-16-14
藤崎ビル1階
☎(6877)1106



工場の授業への
見方も変わりました！



大滝世宙さん

8 完成！

手づくりの革靴は自分にぴったりのサイズに仕上がるだけでなく、手入れをすることで、何十年も履き続けることができます。



時代の流れに
左右されない
一足です



矢倉龍一さん

モノづくりが好きなので
楽しみにしていました！



小林透子さん

大切な一足が できあがる まで

靴づくりには約200の工程があります。現在では多くの靴が工場の機械で作られていますが、靴屋 shiro ではその全ての作業をこの店内で一人で行っています。私たちの履いている靴がどのように作られているのか、実際に使われる素材や職人の道具を見ながら学びました。ここではたくさんの工程のうち、代表的な作業を紹介します。

3 縫製

革をうすくする「漉き」の作業後、革をミシンで縫い、パーツを組み立て立体的にしています。矢倉さんは、古い機械を譲り受け、メンテナンスをしながら使っています。



5 底縫い

曲がった針を使って「すくい縫い」の作業を行い、アッパーと中底に「ウェルト」と呼ばれる細い革を縫い付けます。本底と中底の間にはコルクで出来た「中物」を詰めます。



6 細部を整える

靴の形ができたなら、本底周りの革の切り口をヤスリで整え、専用の道具を使い「コテ当て」などを行い、靴の細部を美しく仕上げます。

7 仕上げ

木型を抜いて靴を磨き、靴ひもを通し、ロゴを印した中敷を入れます。ここでようやく、私たちがお店で見えるような靴の形になります。



4 釣り込み

「ワニ」というペンチで靴の上部の「アッパー」を引っ張りながら釘を打ち、木型に密着させる「釣り込み」という作業を行います。



革小物づくりを体験

キーホルダーづくり



靴の中敷にロゴを刻印するときなどに使う「箔押し機」を使って、名入れキーホルダーを作ります。



好きなアルファベットを入れることができます。今回はジュニア記者の名前を箔押ししました。



色の細やかな表現ができる「タンニンなめし」の牛革に、金色の文字とチェーンがキラリ。

靴づくり



靴づくりに使用するナイロン製の丈夫な糸を使って、二つに折った牛革を縫い合わせます。



牛革は厚くて硬く、布よりも難しさを感じたというジュニア記者。靴職人のような手つきです。

靴べらの穴に革ひもを通せば完成。体験を終えて、ますますモノづくりへの興味がわいたそうです！



完成！

モノづくりOXクイズ

- Q1 『モノづくり見学・体験スポットガイド』には、全部で20のスポットが紹介されています。
- Q2 靴づくりには全部で10種類の工程があります。
- Q3 靴づくりに使われる革にはさまざまな種類があります。

答えは4面にあります

Close-up



夏休み親子エコ教室を
開催しました

あらかわエコセンターで、夏休み期間中、「夏休みエコ教室」・「夏休み親子エコ教室」を開催しました。この教室は、環境の大切さを楽しく学ぶことを目的として、毎年、夏休みの期間に開催しています。

8月7日に行われた夏休み親子エコ教室の「動物ダンボールガチャ工作」では、講師の藍川の先生の指導を受けながら、親子でダンボールのカプセルトイを作りました。どんなカプセルトイを作るか話し合い、一緒にダンボールの組み立てや色ぬりなどをしました。

参加した人たちは、親子で協力して作ったオリジナルのダンボールガチャで楽しく遊ぶことができました。

【問合せ】環境課 ☎内線482



親子で楽しく作りました



世界に一つだけのオリジナルの作品が出来上がりました

モノづくりO×クイズの答え

A1 × 全部で区内31のスポットがエリアごとに掲載されています。体験できるスポットも多く、実際に見て触って楽しく学ぶことができます。

A2 × 細かく分けると約200もの工程があります。複数の職人が分担する場合が多く、一人の職人さんが全てを行うのは珍しいことです。

A3 ○ 牛や馬の革が使われることが多いのですが、中にはワニなどほかの動物の革を使うこともあります。見た目だけでなく、丈夫さや伸びのよさなどの違いを生かして使い分けられます。

「雑誌編集者」になるために

大人になったら
どんな仕事を
してみたい?

将来の夢インタビュー(第9回)

東京の街歩き雑誌『散歩の達人』の編集者・中島理菜さん。



いつごろから雑誌編集者になりたいか?

大学3年生の頃、就職活動で「何になりたいのだろう」と考えたとき、自分がたくさんの雑誌を持っていることに気づき、だんだんと雑誌編集者への憧れが強くなりました。

雑誌編集者になるために、何をしたらいいですか?

編集者に資格は必要ないのですが、いろいろな知識や教養、流行を基に「企画を立てる力」、たくさんの言葉や表現を知り、それを正しく活用させる「校正する力」などが重要だと思います。まずは多くの本や雑誌を読みましょう。

仕事内容を教えてください

簡単に言うならば、雑誌づくりの「司令塔」です。まずは企画を立て、記事を書くライターや、写真を撮るカメラマンと一緒に取材に行きます。その後、ラフと呼ばれる設計図を描き、デザイナーへ渡し、

入稿します。そして出来上がった記事(グラ)が正しい日本語になっているか、確認してから印刷所に渡します。ほかにもアンケートの集計や読者プレゼントの発送など、実はマルチな仕事です。

どんなときにやりがいを感じますか?

読者の方から「この記事が良かったよ」と声を掛けていただいたときです。みなさんからのポジティブな声は励みになります。

雑誌編集者になりたい小・中学生にアドバイスをお願いします

雑誌を作るにあたり一番大事なことは「企画を立てること」です。読者の読みたくなる記事を作るために、まずは自分の「好きなこと」を貫いてください。「好きこそものの上手なれ」という言葉がありますが、好きなことこそ続けられ、しっかりと身につけやすいもの。その先に、自分にしかできないオリジナルの企画が生まれるはずですよ。

夢の職業



中島理菜さん

愛知県出身。(株)交通新聞社入社後、2023年に月刊『散歩の達人』編集部へ配属。趣味は映画鑑賞で、誌面に映画の紹介枠を作った経験も。



応援 message

中島理菜



吉村昭記念文学館
～吉村昭と文学の魅力～
vol.1

【問合せ】吉村昭記念文学館 ☎(3891)4349

吉村昭ってどんな人?

吉村昭(昭和2年(1927)～平成18年(2006))

は、荒川区出身の小説家だよ。ゆいの森あらかわに吉村昭記念文学館があるのは知っているかな? 吉村昭記念文学館では、吉村昭を通じて文学の魅力発信しているんだ。このコラムでは、吉村昭のことや文学の面白さをさまざまな角度から紹介していくよ。

吉村昭は、昭和2年(1927)5月1日、現在の東日暮里六丁目で、製綿工場を営む父・吉村隆策と母・きよじの八男として生まれた。18歳まで家族と荒川区で過ごしたんだけど、その経験は吉村の人生に大きな影響を与えたんだよ。

吉村は中学生のときに肺結核にかかり、ろっ骨を5本も切除する大手術を受けたけれど、この病気や家族の死、戦争体験と戦後の急激な社会の変化は、吉村が小説家を志すきっかけとなったんだ。吉村は大学生で小説を書き始め、その後、大学で出会った北原(津村)節子と結婚した。夫婦ともに小説家として多くの作品を発表していったよ。そして、芥川賞候補に四度もなったあと、昭

和41年(1966)には「星への旅」で太宰治賞を受賞し、『戦艦武蔵』がベストセラーとなって有名になったよ。

そのあとも、戦史・歴史・医学・動物など幅広い



▲吉村昭氏

テーマを扱い、詳しい取材を基にした作品を多く書き上げた。取材へ行くときは、お気に入りの万年筆と取材ノート、録音のためのカセットやカメラを準備して、全国の図書館や資料館を訪れ、たくさんの資料に目を通した。ある時は専門家にも取材して作品を書き上げていったんだ。

42歳のときに新築した家に引っ越し、その後、自宅の庭に書斎を建てた。この書斎は、吉村にとって創作の場であり、安らぎの場でもあったんだ。正月や小説の取材、全国での講演以外は、ほぼ毎日書斎の机に向かっていたよ。文学館にはこの書斎の再現コーナーがあるから、ぜひ、書斎の椅子に座って作家気分を味わってみてね。

※書斎再現コーナーは定期点検などのため、10月4日(金)まで利用ができません